

住民主体のエリアマネジメントを活用したふるさとづくり

鹿ノ台自治連合会



取組の概要

生駒市の北部に位置し、昭和40年代に土地区画整理事業で開発された閑静な住宅地の11自治会をまとめる鹿ノ台自治連合会では住民発意で地区計画を導入するなど、住民のまちづくりへの高い意識の下、行政との協働により豊かな自然環境に恵まれた良好な住環境を維持保全し、次世代に引き継いでいくための取組を進めている。

主な取組の内容・効果

取組内容

花とみどりに囲まれた四季彩のまちづくり

みどりの街づくり推進のため、ボランティア組織「ECOKA委員会」を立ち上げ、緑地12haの樹木等の保護・育成、幼稚園や小学校の環境教育に取り組み、都市近郊の緑地保全と緑化推進に取り組んでいる。

安全安心の街・鹿ノ台を地域ぐるみで支える

地域防災・安全安心なまちづくりに自主防災会、青色防犯パトロール委員会を立ち上げ、子どもを見守る立哨、防犯カメラの設置、救護・消火訓練や行動マニュアルを作成し、自助・近助・公助の支え合い活動に取り組んでいる。

世代を超えた交流イベントの実施

自治組織による県内最大の納涼祭、歩こう会、よんにちサロン、いきいきまちづくり会など地域内交流づくりを積極的に展開している。また、ボランティアで「いきいきホール」を運営、就学前子育て支援、交流サロンで珈琲の提供などコミュニティの多様な活動を展開している。

住環境の維持保全活動で街並み景観を向上

良好な街並み景観の維持のため、毎月1回の地区内一斉清掃、花壇の花植え、広告物撤去など包括的エリアマネジメントを推進、高齢化に向けた助け合いシステムづくりに着手した。

行政との協働事業を積極的に推進

まちづくりにSDGsの地域目標を定め、自立したコミュニティを展開している。

取組の効果

緑地整備を進めたことで

- ・明るい樹林となり樹木が再生した。
- ・不法投棄ごみが激減した。
- ・緑地で里山の環境学習が始まった。
- ・自然を活かすイベントが始まった。
- ・街並み景観と自然景観が調和した。
- ・ライフスタイルの変化も見られる。

地域ぐるみの安全安心・防災活動で

- ・週3回のパトロールで地域を知った。
- ・いきいきした児童の挨拶が増えた。
- ・住民の防災意識が向上した。
- ・ゲートタウンの利点を理解した。
- ・コミュニティの横展開が深まった。

住民主体の交流施設として「鹿ノ台いきいきホール」を5年前からボランティア組織で立ち上げ、運営したことで

- ・音楽祭、オータムフェスタなどイベント開催で住民交流が深まった。
- ・リーダー格の人材発掘ができた。

良好な住環境を維持保全することで

- ・まちが整いきれいになった。
- ・不動産価値の判断基準を再認識。
- ・空き家の回転率が高まった。
- ・街をきれいにする美化意識の向上。

多分野にわたる行政との連携事業を実施することで、お互いの立場を理解し、地域版のSDGs機運が高まった。

取組のプロセス

1980年

- ・当時は新しい住宅地で、まちづくりに無関心
- ・住民の多くが地域活動に無関心で、完結された街に満足していた

1980年

きっかけ

郊外型大規模開発地域（総面積122ha）は、開発業者で維持管理されていたが、公共施設が生駒市に移管された時点で11自治会と上部組織で自治連合会が発足

1990年～

- ・自分たちのまちは自分たちで守る、地域でできることは地域で行うという意識の浸透
- ・次代を担う若い世代の地域への愛着・つながりの醸成
- ・継続的活動の推進に委員会方式を導入（自治会長の1年交代制度を補完するために）

1990年～

住民による地域への関心の芽生え

- ・自治会の主体的な地域活動が始まる
- ・奈良県親切美化県民運動実践モデル地区に指定（奈良県）
- ・奈良県景観住民協定地区認定（奈良県）
- ・鹿ノ台環境保全対策協議会が発足（自治会）



1992年～

- ・住民の高齢化とともに肉体的労働を伴う花植え、水やりに苦情が出始めた

1992年～

地域内の花いっぱい運動

- ・6カ所にある花壇を全て手づくりで維持管理
- ・月1回の地域一斉美化清掃活動を開始



2008年～

- ・防犯カメラは県助成制度の支援を受ける（助成支援）

2008年～

地域の安全・安心・防災に対する意識が芽生えてきた

- ・鹿ノ台青色防犯パトロール委員会を組織
- ・週3回の地域内パトロールを開始
- ・防犯カメラの設置
- ・地域の犯罪率が激減



2009年～

- ・良好な街並み景観
- ・自然景観を目指す

2009年～

緑地の維持管理と、緑化活動をECOKA委員会が開始

- ・緑地を里山風に修景
- ・身近な自然と共生
- ・ゴミの不法投棄激減



2015年～

- ・高齢化とともにシニア層の地域回帰が始まる
- ・空き家対策は子育て層から定住地として選択されるまちにすること

2015年～

消防署鹿ノ台分署跡に住民自主運営のいきいきホールを設置し、ボランティアで運営

- ・地域交流を図るため住民主体の自治会館を運営
- ・会議、研修、交流サロン、子育て支援室、多目的ホールなどの施設として活用するため専属事務員2名配置
- ・交流を深めるためにオータムフェスタを1カ月間実施
- ・音楽祭、絵画作品展示会など実施

今後の展望

- ・地域づくりのリーダー、後継者の育成
- ・高齢者のコミュニティづくり
- ・地域内循環バスの運行計画
- ・賑わいづくりの企画立案
- ・地域からのSDGs推進
- ・既設インフラの維持管理（行政との連携）

DATA

事例名 ▶ 鹿ノ台いきいきホール運営委員会（鹿ノ台自治連合会） 渉外部

所在地 ▶ 奈良県生駒市鹿ノ台北3-10-19

連絡先 ▶ TEL・FAX 0743-78-2011

E-mail isaoya@pastel.ocn.ne.jp

ウェブサイト ▶ <http://shikanodai.jp/>

講演依頼・視察受入 ▶ 可能（条件：無料）

関連著書 ▶ 「地域づくり 特集編」（2018年3月号／一般財団法人 地域活性化センター）

